

中国電子オルガン界の現状

曾 夢 (上海音楽学院)

進行：森下絹代 書記：西山淑子 (文責)

【はじめに】

中国の電子オルガン教育は、1985年にヤマハ音楽振興会及びヤマハ株式会社のサポートのもと、中央音楽学院及び上海音楽学院がエレクトーン講師養成の専攻課程を開いた。その後、天津音楽学院も同課程を開いたことに始まる。90年代の初め、九つの名門音楽大学で相次いで電子オルガンコースが正式に創設され、今日では四十数校の高校や、数百に及ぶ民間の学校も電子オルガンの教育を広めており、電子オルガンを人口はますます増加している。そして2007年、中国の国産ブランド電子オルガン「吟飛（リングウェイ）」が発表され、中国における電子オルガンの普及と教育の場に、更なる発展とチャンスが提供された。

【中国の電子オルガンの発展概況】

1. 講師の資質

電子オルガンのプロ演奏家の育成を担当しているのは、九校の音楽学院に所属する三十余名の教師で、その多くは電子オルガン課程の修士号を取得しており、大きなコンペティションで賞を獲得した若き演奏家としての顔も持っている。また、海外に派遣され、クラシックオルガンの演奏を学んで、博士号を取得したり、国際的なコンクールで賞を獲得した者もいる。

2. 電子オルガンの専攻課程の設立

基本的には、学生達が社会のニーズに応えることができるよう、複合的な才能を持つ人材として育成する方針が採られており、演奏、編曲、創作、即興演奏などのほか、合奏、MIDI制作などが関連科目としてある。学生が自分に適した専門やスタイルを見つけられるよう工夫がなされている。

3. 中国の音楽界における電子オルガンの活用

ミュージカル、オペラ、器楽及びオーケストラやジャズバンド、多くの権威ある音楽会や、「中国春節聯歡晩会」（日本の紅白歌合戦のような番組）、上海滬劇団や越劇団でも、常に電子オルガン奏者が加わっている。上海音楽学院のミュージカル科では、通常の授業や公演の時に、電子オルガンはハイブリット・オーケストラのスタイルで重要な役割を常に果たしている。電子オルガンを学ぶ学生に多くの可能性を与え、彼らにさらに多くの就職先を提供している。

4. 学生の就職状況

卒業後の進路は主に3つ。①大学院への進学や海外留学。②楽器メーカーや音楽センターへの就職。③自ら音楽教室を開き、経営する。

中国市場の不断の拡大と多様化によって、電子オルガンを学ぶ学生の前途もまた次第に明るいものとなっていると言える。

【中国の電子オルガンに関連する活動】

映像とともに主なイベントを紹介（要項 P.16 の表参照）

【中国の国産電子オルガン「吟飛（リングウェイ）」】

1. 吟飛公司（江蘇省）とは
高度な研究開発、設計、生産、販売及びサービスなどを包括する科学技術企業である。2005年、国際的な電子オルガン演奏家であり、教育家である朱磊副教授の指導のもと、優秀なプロフェッショナルチームと共に、中国国産第一号となる電子オルガン RS500 を開発し、更にこの10年間で五世代の新機種を生産している。

2. リングウェイ電子オルガンの教材

教材に関しては、今日までに研究センターが編集したものは50冊余り、作品の数は300曲近くに迫っている。作品には中国の民族音楽の特色を有した作品も多く、多くの学習者から好評を得ている。

3. リングウェイ電子オルガンの重要な活動

2008年8月、「首届中国电子管风琴大赛」（第一回中国電子オルガンコンペティション）、2014年のリングウェイ国際電子オルガンコンペティション（電子オルガン、クラシックオルガンの2部門）、2015年8月第一回中国音楽「小金鐘」賞、「吟飛杯」全国電子鍵盤楽器コンペティションを開催。

4. リングウェイ電子オルガンの普及と教育活動

2010年より、吟飛公司はリングウェイ電子オルガンの講師を育成する事業を全国で展開。2015年までに養成された講師の人数は数百人に達している。

5. リングウェイ電子オルガンの国際楽器展覧会の参加
中国楽器協会及び上海国際展覧センター有限公司、メッセフランクフルト（香港）が主催した2014年中国国際楽器展覧会（Music China、上海）に連続参加。

【まとめ】

この30年間で、中国の電子オルガンは長足の発展を遂げており、その普及と教育市場は、大きな広がりを見せている。同時に、各種コンペティションによりプロフェッショナルのレベルはますます上がり、音楽界全体の注目を集めている。私は幸いにも今年の九月からの一年間、中国から昭和音大に派遣される特別研究に選ばれた。電子オルガンの研究を進めるにあたり、国際交流がますます必要であると強く感じている。この学会に参加する機会を与えていただいたことに感謝するとともに、日中両国の音楽文化の交流がさらに緊密なものとなり、ともに電子オルガン事業が発展することを願ってやみません。